

NGO インターン・プログラム 完了報告書

団体名	特定非営利活動法人 ISAPH
育成期間	令和7年6月1日～令和8年3月31日
氏名	三浦 夕季

1) インターン期間を通じて得たもの

2年間のインターンを通じて、NGOの業務に携わり実践を通して学ぶことで、国際協力に必要なスキルを段階的に養うことができた。今年度は、JICA 草の根技術協力事業の開始を控える中で、健康教育だけでは母子保健サービス利用に結びつかない層へのアプローチや、現地医療従事者が自立的に活動・展開できる体制づくりが不可欠であることを踏まえ、「分野・課題専門力」「総合マネジメント」の向上を目標に取り組んだ。

具体的に得られた専門性として、以下の点が挙げられる。

・分野・課題専門力

(ア) 行動背景理解力(調査・分析力)：現地医療スタッフへの行動経済学の研修や母子保健調査、マラウイでの妊産婦へのヒアリングを通じて、意思決定に影響する行動の癖や環境要因、選択構造を多角的に把握する力を養った。

(イ) 仮説形成・介入設計力：妊婦健診の受診遅れの要因を分析し、母子保健サービス利用促進への介入の方向性を検討する視点を得た。また、ラオスとマラウイの文化・社会構造の違いを比較することで、社会規範や周囲の影響が文化や社会構造によって異なる形で作用することを理解し、これを踏まえて仮説に基づく介入設計の視点を養った。

(ウ) 分析・評価力：活動の評価においては、データの分析・評価だけでなく、スタッフの理解の過程や学びが実際の行動にどのように反映されているかまで含めて評価する視点を養った。また、学びのプロセスや理解度に応じて内容を調整し、介入効果の測定・分析・改善につなげる力を培った。

これにより、「仮説に基づき、望ましい行動を促す介入方法を設計する力」を養うことができたと考える。

・総合マネジメント力

(ア) プロジェクトマネジメント力：研修計画・実践・改善や事業運営の視察を通じ、運営上起こりうる事象やその対策を実体験として理解したことで、事前に想定できる視野を広げ、状況に応じて柔軟に対応しながら事業運営を推進する力を養った。

(イ) コーチング力：保健センター基盤整備での研修内容設計において、知識伝達にとどまらず、スタッフの主体性を引き出す視点を得た。

(ウ) 調整・合意形成力：MOU 承認に向けた関係機関への事前説明、懸念点整理、交渉、進捗管理、経時的モニタリングを経験し、関係者を巻き込みながら業務を前進させる調整力・合意形成力を養った。

これにより、「関係者と協働して事業を効果的に推進する力」を身に着けることができたと考える。

2) 今後の課題

これまで事業準備を進めてきたが、実際の事業運営はこれからであり、主に現場で活動してきた経験から、事業全体を管理する視点はまだ十分ではないと感じている。

今後の課題は以下の3点である。

・事業全体を俯瞰する視点の強化

個々の活動だけでなく、事業の進捗や組織全体の構造、関係機関との連携状況などを含めた全体像を把握することを意識していきたい。

・行動経済学の知見を政策に反映できる体制の構築

医療従事者やカウンターパートが、行動経済学の視点を活用した取り組みを通して得られた知見や成果を整理し、発信できるよう支援するとともに、現地で自走し主体的に推進できるチームの基盤整備を進めたい。

・事業の持続性や拡大を見据えた案件形成への取り組み

事業に尽力しつつ、ラオス、ISAPH、そして自身の将来を見据え、次期事業の方向性や資金調達の可能性を検討し、案件形成に取り組みたい。これにより、事業成果を確実に上げるだけでなく、組織としての持続的運営や NGO としての存在感を高め、持続可能な国際協力の仕組みづくりに貢献していきたい。

3) 今後の進路について

2026年4月より、JICA 草の根技術協力事業において、専門家として従事する予定である。事業終了までの3年間は引き続き ISAPH にて活動に従事し、現地推進に取り組みたいと考えている。この期間中には、次期事業の案件形成や、将来的な大学院進学に向けた専門性の開拓も進める予定である。また、日本の協力者や支援者を獲得するため、ネットワーキング活動も積極的に行う計画である。これらを通じて、国際協力人材としての専門性・実践力をさらに高めていきたいと考えている。

4) 団体コメント欄

三浦インターンは、2年間のインターン期間を通じて、当団体の母子保健・栄養改善事業に主体的に関わりながら、国際協力の実務に必要な知識と実践力を着実に身につけてきました。特に今年度は、行動経済学の視点を取り入れた取り組みとして、妊産婦へのヒアリング調査や栄養改善に係る研修の企画、MOU 承認に向けた現地関係者との調整

など、多岐にわたる業務に積極的に取り組み、事業の準備および推進に貢献しました。現場の状況や文化的背景を踏まえて課題を分析し、関係者と協働しながら活動を進める姿勢は高く評価しています。2026年4月からは JICA 草の根技術協力事業の専門家として引き続き当団体で活動する予定であり、これまで培った経験を活かし、事業推進の中心的な役割を担うことを心から期待しています。

また、本インターン・プログラムが、NGO への入職機会や草の根レベルでの国際協力人材の育成の場として大きな意義を有していることに、心より感謝申し上げます。